

アンケート概要

【横尾】

アンケート方法

日時 2014(平成26)年8月5日(火) 11時~16時、8月6日(水) 8時~13時
 場所 横尾山荘前
 方法 下山してきた登山者にアンケート用紙を渡して記入してもらう

登山者のプロフィール

性別 男性(46%)、女性(49%)
 平均年齢 47才
 無雪期登山歴 7.7年

登山のアウトライン

目的の山 槍ヶ岳(40%)、穂高の山々(30%)、涸沢など麓だけ(10%)
 泊まり 小屋泊(73%)、テント泊(27%)
 日程 2泊3日が多く、平均3.4日
 同行者 家族(27%)、友人(35%)、山岳会(20%)

特徴

計画書を作らなかった人は5%だけ
 歩くスピードが速いと思っている人が30%

状況

8月5日は、曇りで時々小雨がふる天気で、上部の山はほとんど見えなかった
 8月6日は、台風11号の影響で上部は風が強くなりかなりの荒れ模様
 従って、登頂をあきらめたり、日程を変更して下山してくる人が多かった
 高校山岳部の合宿登山が目立った
 小学生程度の子どもの含むファミリー登山が目立った

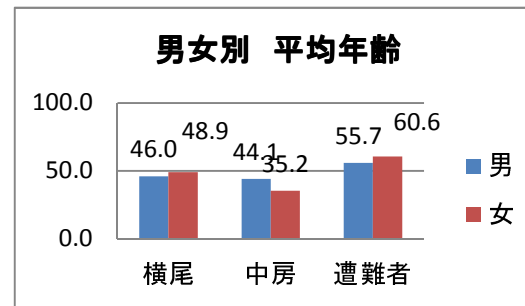
印象

3,000m峰をいくつも抱える日本有数の峻しい山域にふさわしく、レベルの高い登山者が多い

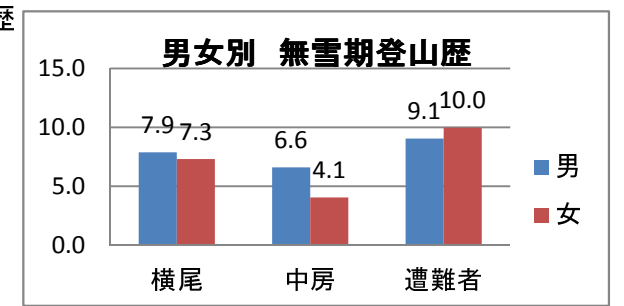
考察

男女ともに、60代をピークとする登山歴10年以上の層がある。
 また登山歴5年未満のピークは、男性では40代、女性では30代である
 登山歴10年以上の層は、90年代からの中老年登山ブームを起こした人たちと考えられる
 登山歴5年未満の層は、2006年頃からの登山ブーム(キーワード 山ガール)の主体である
 山ガール登山ブームの主体は、男性40代、女性30代

◆ 年齢



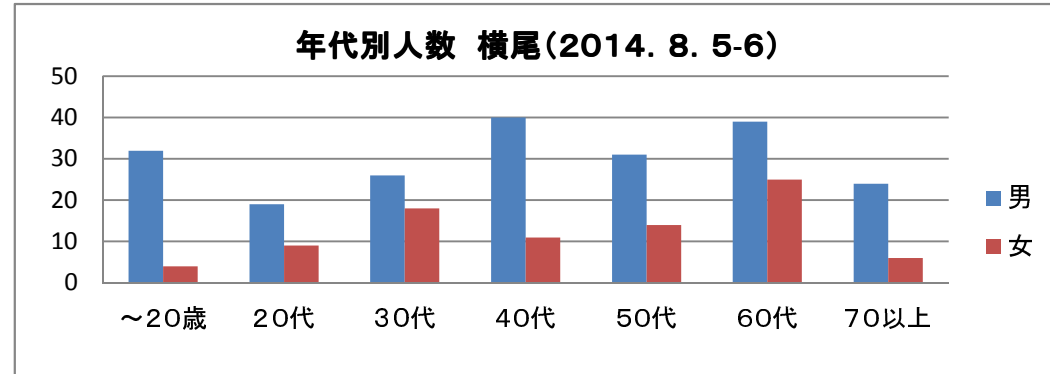
◆ 無雪期登山歴



◆ 年代別の人数(横尾のみ)

※(3) 13, 14から合成

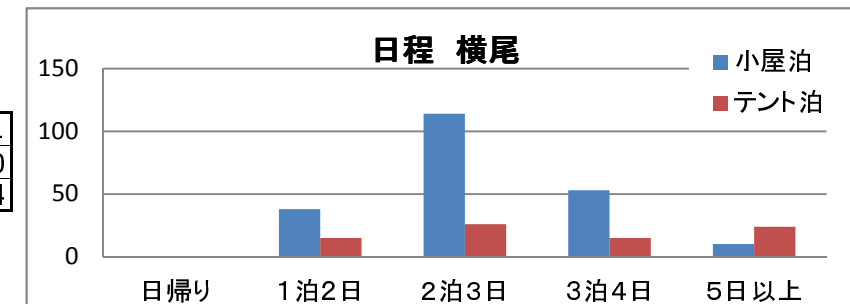
年代	男	女
~20歳	32	4
20代	19	9
30代	26	18
40代	40	11
50代	31	14
60代	39	25
70以上	24	6
合計	211	87



◆ 登山日程(横尾のみ)

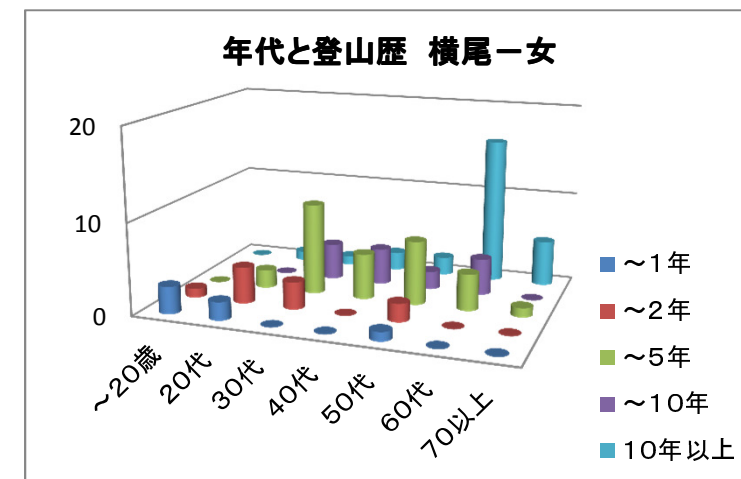
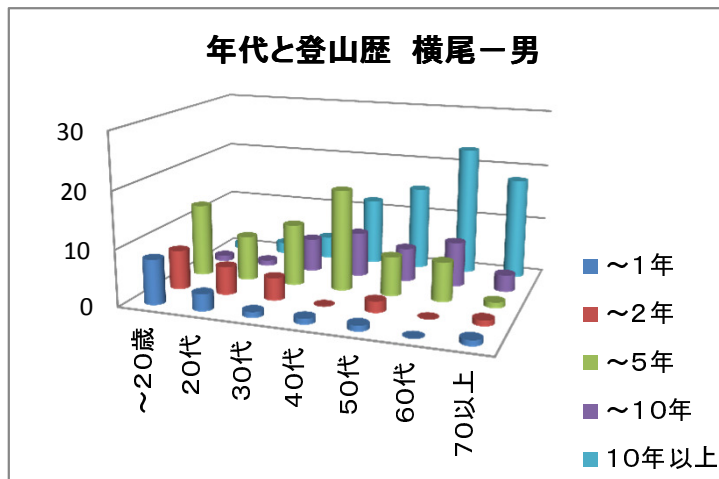
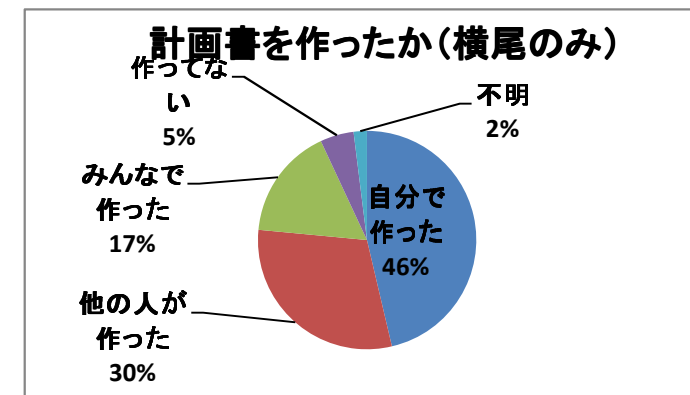
	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	5日以上
小屋泊		38	114	53	10
テント泊		15	26	15	24

小屋泊、テント泊ともに2泊3日が多い



◆ 登山計画書の作成

区分	横尾	中房	遭難者
自分で作った	46.4	31.0	
他の人が作った	30.1	32.2	64.5
みんなで作った	16.6	17.2	
作ってない	5.0	17.2	22.4
不明	2.0	2.3	13.2
合計	100.0	100.0	100.0



【中房】

アンケート方法

日時 2014(平成26)年8月20日(水) 9時~16時
 場所 中房登山口
 方法 下山してきた登山者にアンケート用紙を渡して記入してもらう

登山者のプロフィール

性別 男性(50%)、女性(49%)
 平均年齢 40才
 無雪期登山歴 5.3年

登山のアウトライン

目的の山 燕岳(90%)、常念岳(4%)
 泊まり 小屋泊(87%)、テント泊(6%)
 日程 1泊2日(72%)、2泊3日(19%)
 同行者 家族(30%)、友人(36%)、山岳会(14%)

特徴

保険に加入している人が少ない
 大学の女子山岳部パーティーがいたので、20代以下の女性比率が上がった
 計画書を作っていない人が17%(横尾の3倍)いる
 登山のためのトレーニングをしている人が少ない

状況

お盆休みが終わった次の週、前線があって西日本では大雨だったが北アはまずまずの天気
 小学生くらいの子どもを連れてファミリー登山が多かった
 1泊2日で、燕山荘に泊まり、燕岳に登った人がほとんど

印象

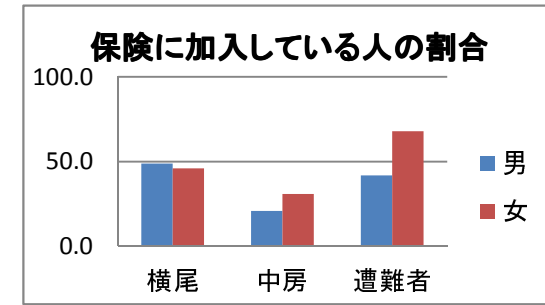
幅広い年代の人が登っている
 日頃からあちこちの山に登っているという感じの人は少なく、どちらかというと初心者の人が多い
 登山者のプロフィールは、昨年度調査した八ヶ岳と似ている
 八ヶ岳 平均年齢(37才)、無雪期登山歴(5.7年)

考察

登山歴10年以上の層は男性では見られるが、女性では顕著ではない
 登山歴5年未満の層は、男女ともに40代をピークとしてみられる
 20代以下で経験1年未満の男女に顕著なピークがある
 経験2年未満の人は、各世代・男女ともに登っている
 これは、燕岳が初心者向けの山と考えられていることを示唆する

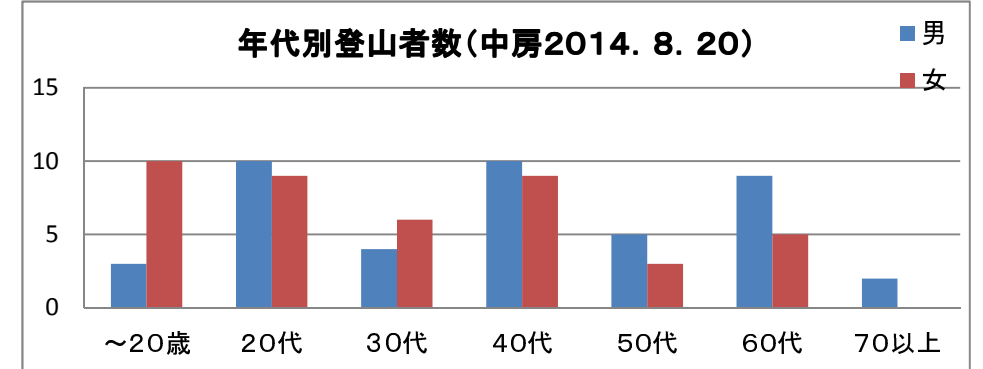
◆ 保険加入の割合

	横尾	中房	遭難者
男	48.8	20.9	41.9
女	46.0	31.0	68.0
合計	48.0	25.6	50.0



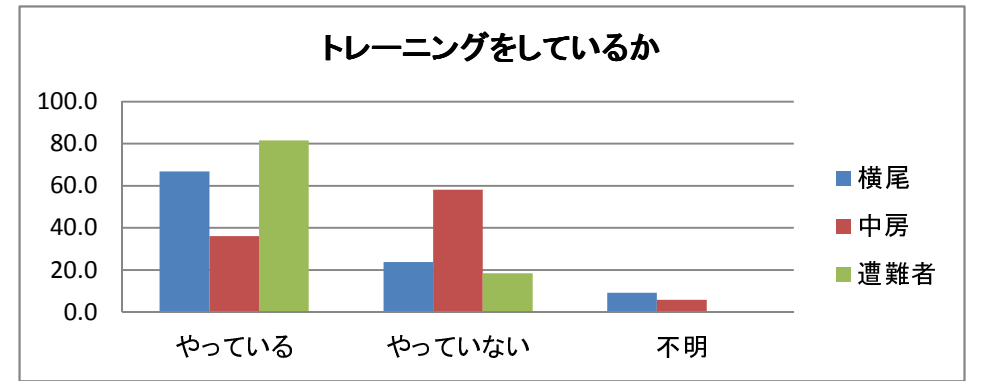
◆ 年代別の人数(中房のみ) ※(3) 13, 14から合成

年代	男	女
~20歳	3	10
20代	10	9
30代	4	6
40代	10	9
50代	5	3
60代	9	5
70以上	2	
合計	43	42



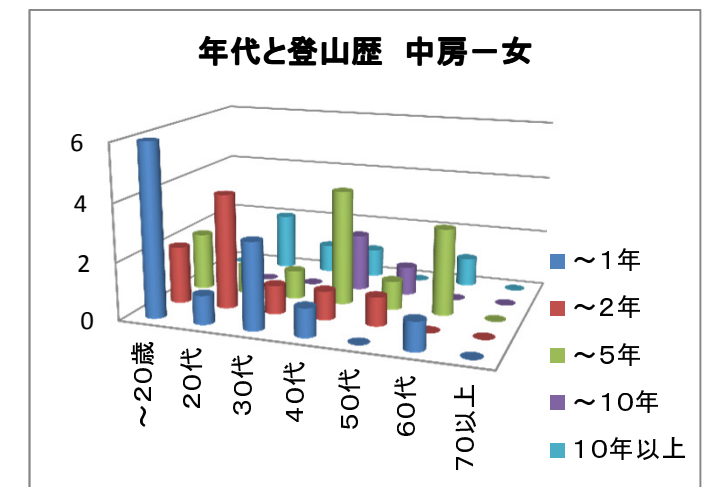
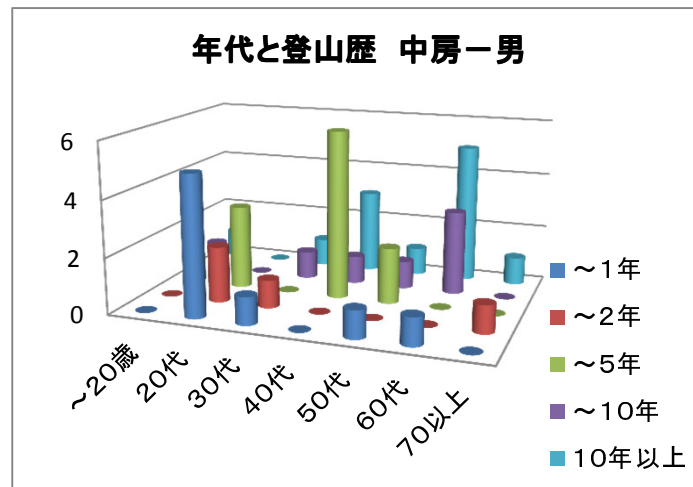
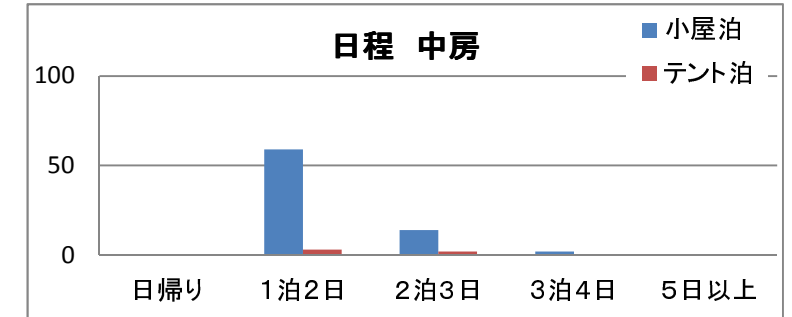
◆ トレーニングをしているか

区分	横尾	中房	遭難者
やっている	66.9	36.0	81.6
やっていない	23.8	58.1	18.4
不明	9.3	5.8	
合計	100.0	100.0	100.0



◆ 日程

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	5日以上
小屋泊		59	14	2	
テント泊		3	2		



【遭難者】

アンケート方法

長野県警に依頼し、2014(平成26)年7月2日～9月3日までの、死亡・行方不明者を除く遭難者に、切手付き返信用封筒とともにアンケート用紙を渡した。83人に渡し76人から回答を得た。(回答率91.6%)

登山者のプロフィール

性別 男性(57%)、女性(33%)
 平均年齢 58才
 無雪期登山歴 9.5年

登山のアウトライン

目的の山 泊まり 小屋泊(87%)、テント泊(6%)
 日程 1泊2日(72%)、2泊3日(19%)
 同行者 家族(30%)、友人(36%)、山岳会(14%)

特徴

年齢60代以上、無雪期登山歴10年以上の”ベテラン登山者”が多い

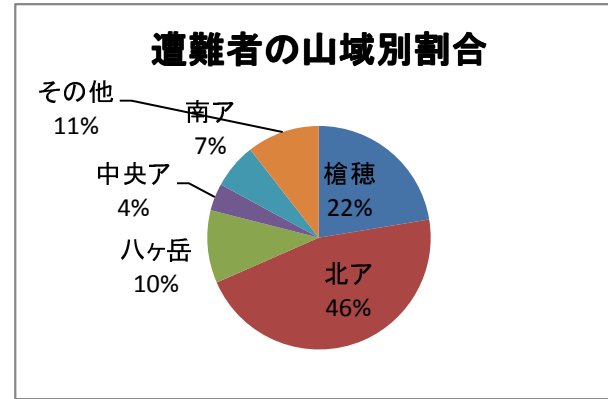
印象

60代以上、経験10年以上に集中している以外に、遭難者の特徴は明確でない

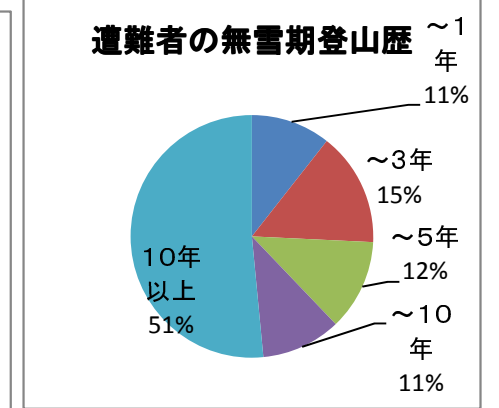
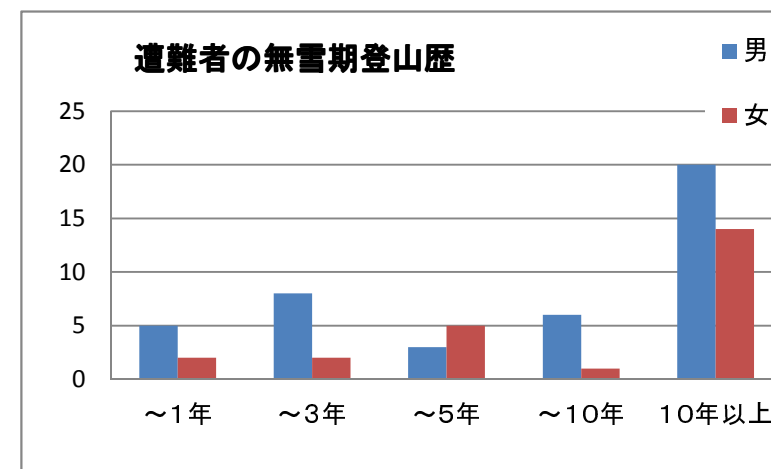
考察

60才以上の遭難者が多いことは、これまでも知られていたことだが、その多くが無雪期登山歴10年以上のベテラン登山者だったということは知られてなかった。今回の調査では、遭難者76人のうち29人(38%)を占める。この人たちを”ベテラン登山者”として、それ以外の人たちと、意識や行動、体力などの違いを検証する

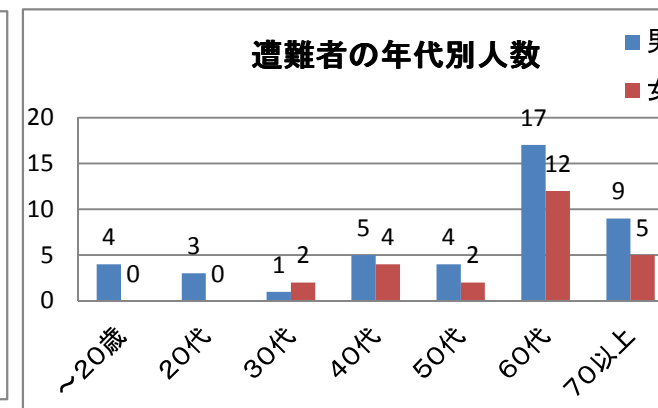
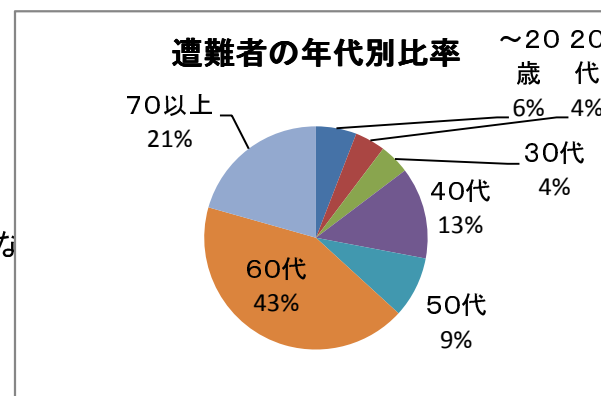
◆ 遭難者の山域別割合 北ア:槍穂を除く北ア全域



◆ 遭難者の無雪期登山歴



◆ 遭難者の年代別人数

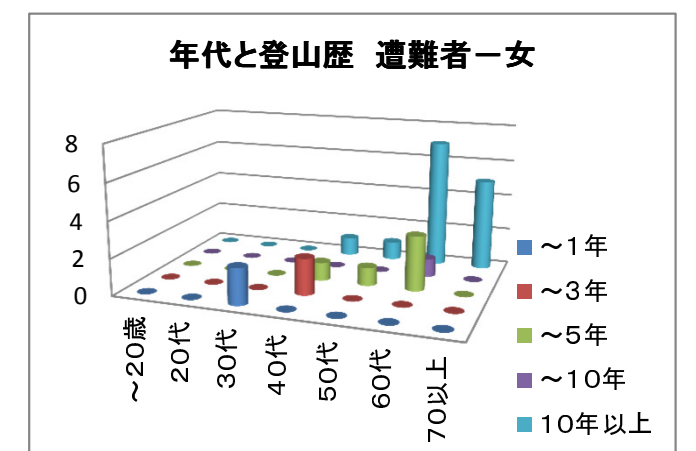
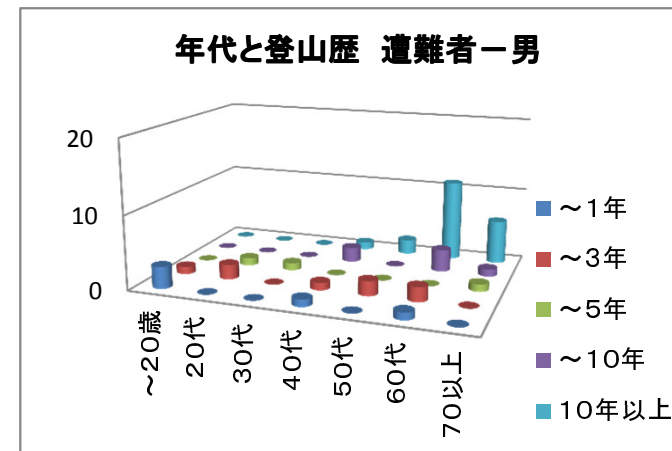


遭難者の年代別人数 ※(3) 13, 14から合成

年代	男	女	合計	比率
～20歳	4		4	5.9
20代	3		3	4.4
30代	1	2	3	4.4
40代	5	4	9	13.2
50代	4	2	6	8.8
60代	17	12	29	42.6
70以上	9	5	14	20.6
合計	43	25	68	100.0

※8名が性別不明

◆ 遭難者の年代別、無雪期登山歴



遭難者(男性)の年齢と登山歴

年齢	～1年	～3年	～5年	～10年	10年以上	合計
～20歳	3	1				4
20代		2	1			3
30代			1			1
40代	1	1		2	1	5
50代		2			2	4
60代	1	2		3	11	17
70以上			1	1	6	8
合計	5	8	3	6	20	42

遭難者(女性)の年齢と登山歴

年齢	～1年	～3年	～5年	～10年	10年以上	合計
～20歳						
20代						
30代	2					2
40代		2	1		1	4
50代			1		1	2
60代			3	1	7	11
70以上					5	5
合計	2	2	5	1	14	24